

拡充している！絶対に算定したい！！（ただし体制やスケジュールの見直しは必須）

3.(1)⑨ 通所介護における個別機能訓練加算の見直し

概要	【通所介護、地域密着型通所介護】	
	○ 通所介護・地域密着型通所介護における個別機能訓練加算について、より利用者の自立支援等に資する個別機能訓練の提供を促進する観点から、加算の取得状況や加算を取得した事業所の機能訓練の実施状況等を踏まえ、従来の個別機能訓練加算（Ⅰ）と個別機能訓練加算（Ⅱ）を統合し、人員配置基準等算定要件の見直しを行う。【告示改正】	
単位数	<p><現行> 個別機能訓練加算（Ⅰ） 46単位/日 ⇒ 個別機能訓練加算（Ⅰ）イ 56単位/日 個別機能訓練加算（Ⅱ） 56単位/日 個別機能訓練加算（Ⅰ）ロ 85単位/日 個別機能訓練加算（Ⅱ） 20単位/月（新設）</p> <p>※イとロは併算定不可 ※加算（Ⅰ）に上乘せして算定</p>	
算定要件等	<p>ニーズ把握・情報収集 通所介護・地域密着型通所介護事業所、機能訓練指導員等が、利用者の居宅を訪問し、ニーズを把握するとともに、居宅での生活状況を確認。</p> <p>機能訓練指導員の配置 (Ⅰ)イ 専従1名以上配置 (配置時間の定め) ナース (Ⅰ)ロ 専従1名以上配置 (サービス提供時間) リハ職</p> <p>※人員欠如減算・定員超過減算を算定している場合は、個別機能訓練加算を算定しない。 ※イは運営基準上配置を求めている機能訓練指導員により満たすこととして差し支えない。ロはイに加えて専従で1名以上配置する。</p> <p>2人配置の場合（例）</p> <p>計画作成 居宅訪問で把握したニーズと居宅での生活状況を参考に、多職種共同でアセスメントを行い、個別機能訓練計画を作成。</p> <p>機能訓練項目 利用者の心身の状況に応じて、身体機能及び生活機能の向上を目的とする機能訓練項目を柔軟に設定。訓練項目は複数種類準備し、その選択に当たっては利用者の生活意欲が増進されるよう利用者を援助する。</p> <p>訓練の対象者 5人程度以下の小集団又は個別</p> <p>訓練の実施者 機能訓練指導員が直接実施（介護職員等が訓練の補助を行うことは妨げない）</p> <p>進捗状況の評価 3ヶ月に1回以上実施し、利用者の居宅を訪問した上で、居宅での生活状況を確認するとともに、当該利用者又はその家族に対して個別機能訓練計画の進捗状況等を説明し、必要に応じて個別機能訓練計画の見直し等を行う。</p> <p><加算(Ⅱ)>加算(Ⅰ)に加えて、個別機能訓練計画等の内容を厚生労働省に提出し、フィードバックを受けていること（CHASEへのデータ提出とフィードバックの活用）</p>	

3か月に1回
LIFEに提出

2人配置の場合（例）

ナース

リハ職